

## 自衛官募集担当者が護衛艦「むらさめ」を見学

自衛隊静岡地方協力本部（本部長・定免克己一等空佐）は、8月4日（金）、清水港日の出埠頭（静岡市）において行われた、静岡市副市長・長谷川重之氏及び同市役所の自衛隊募集事務担当職員など4人に対する海上自衛隊第1護衛隊（横須賀基地）所属の護衛艦「むらさめ」への表敬訪問及び見学に協力した。

これは、翌日から静岡市が開催する「第70回清水みなと祭り」支援のため入港した同艦への謝意と、海上自衛官が日々活躍している職場を間近で確認することで、今後の自衛官募集事務の資とするために行われた。

参加者は、まず第1護衛隊司令・渡辺雄一（一等海佐及び「むらさめ」艦長・竹内周作二等海佐）に表敬訪問を行った。その後、艦橋において航海員から安全に航海するために日々行っている業務の説明を受けるとともに、起床などの合図や号令、信号に使われるラッパ吹奏やきびきびとした手旗信号の展示を見学した。

また、飛行甲板において館山基地（千葉県館山市）第21航空群に所属する哨戒ヘリコプター「SH-60K」の見学を行い、搭乗員から日々の仕事などについて説明を聞き、一人で何役もこなすパイロットの業務と任務の重大さに関心を寄せていた。

静岡地本は、引き続き市町の募集事務担当者と緊密に連携を図り、組織的募集基盤の拡充と充実に努めていく。



## 静岡科学館で南極イベントを開催

自衛隊静岡地方協力本部（本部長・定免克己一等空佐）は、8月7日（月）、静岡科学館ぐるくる（静岡市）で行われたイベント「南極の氷にさわってみよう」で、海上自衛隊による南極地域観測協力活動などについてPRを行った。

これは、科学館と静岡地本の共催で毎年行っており、今回で7回目。「見て聞いて触って学ぶ」をテーマに、南極地域観測隊の輸送・研究支援を目的とした砕氷艦「しらせ」が持ち帰った南極の氷や南極の石の展示を行い、家族連れを中心に337人が来場した。

最初に静岡募集案内所の海上自衛官がこれまでの艦艇勤務で訪れた諸外国や訓練の様子などを話した後、子供と家族が一緒になって考える「南極地域観測事業に関するクイズ」を出題し、子供たちにも楽しくわかりやすいよう説明を行った。

その後、実際に「しらせ」が南極から持ち帰った氷や石に触れ、氷が溶けるとともに閉じ込められていた1万年以上前の空気がプチプチと音をたてる様子を耳と手で感じて、はるか遠い南極の世界に思いを馳せている様子であった。

参加した子供たちは「このイベントに参加するのは今年で3回目。将来南極に行きたい」「環境問題について考えるいい機会になった」と話していた。

静岡地本は、今後もこのような場を活用して子供たちに将来の夢や目標を与え、世界で活動する自衛隊を広く知ってもらえるよう広報に努めていく。

